国立国語研究所学術情報リポジトリ

「国語関係新聞記事データベース」について（中間報告）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): newspaper articles, database, Japanese language 作成者: 井上, 優, 辻野, 都喜江, INOUE, Masaru, TSUJINO, Tokie メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001128

国立国語研究所報告　104　研究報告集 13（1992）

「国語関係新聞記事データベース」について(中間報告)

井上　優・辻野　都喜江

INOUE Masaru, TSUJINO Tokie:
Database of Newspaper Articles on Japanese: Research to date

要旨：国立国語研究所では，昭和24年からことばに関する新聞記事を収集し，『国語関係記事切抜集』として整理，保存している。(昭和28年から昭和63年までの主要な記事については，各年の『国語年鑑』にその一覧がある。)

本稿の前半では，『国語関係記事切抜集』に採録されている記事の目録である『国語関係記事台帳』(現在，情報資料研究部第一研究室で作成中)の概略及びその活用法について述べる。

後半では，辻野が1980年から1989年の『国語年鑑』をもとに作成した『国語年鑑所収新聞記事データベース』の概略，及び10年間の新聞記事の動向を述べる。

キーワード：新聞記事，データベース，日本語，国語

Abstract: The National Language Research Institute (NLRI) has been collecting newspaper articles on the Japanese language since 1955. A proportion of the articles collected between the years 1953 and 1988 are listed in the "Kokugo Nenkan."

In this report, which consists of two sections, we explain the nature of this collection of newspaper articles.

Section 1 presents an outline of the "Database of Newspaper Articles on Japanese " (DNAJ), the comprehensive list of the newspaper articles on the Japanese language (work currently in progress). We demonstrate some ways of using DNAJ for linguisitic (especially sociolinguistic) studies.

Section 2 presents an outline of "Database of News Articles in Kokugo Nenkan 1980-1989" (by Tsujino) , and describes the overview of newspaper articles on the Japanese language in those ten years.

Key Words: newspaper articles, database, Japanese language

はじめに

国立国語研究所では，昭和24年からことばに関する新聞記事を収集，保存している。その一部は毎年発行している『国語年鑑』の「新聞記事一覧（国語関係）」に掲載されている（1989年まで）。現在は情報資料研究部第一研究室の井上優，辻野都喜江，中曽根仁が，(i)新聞記事の収集・整理及び(ii)蓄積記事の活用に関する研究をおこなっている。

本稿は(ii)に関する報告であり，次の二つの部分からなる。

1．『国語関係記事台帳』について

2．『国語年鑑所収新聞記事データベース』について

1．は，井上・中曽根・辻野が1991年3月7日に統計数理研究所でおこなった口頭発表をもとに井上が原稿を作成した。2．は，辻野が同日おこなった口頭発表をもとに辻野自身が原稿を作成した。そして，全体をまとめる際に井上が書式，用語などについて統一をおこなった。

1．『国語関係記事台帳』について

国立国語研究所で収集された新聞記事は，台紙にはりつけて製本し，『国語関係記事切抜集』（以下『切抜集』）として図書館に保存している。(1991年12月現在775冊，総記事数75,000件程度)。蓄積された記事は，戦後の日本人の言語及び言語生活の変化を見る上で貴重な資料である。

本節では，この『切抜集』を研究資料として活用するための記事目録である『国語関係記事台帳』（以下『台帳』，現在作成中）について述べる。

1.1.　『台帳』の情報

『台帳』は，データベース・ソフト「桐 Ver. 3」（管理工学研究所）上で作成され，次の20の項目からなる。(「数字」とあるのは数字データ，それ以外は文字データ)

(1)「台帳番号」（数字）

『切抜集』一冊ごとにつけられている通し番号。

(2)「記事番号」(数字)

『切抜集』の台紙一枚ごとにつけられている通し番号（年単位）に枝番1桁（原則として0）を加えたもの。→1.2.1.参照

例：通し番号 1991 →記事番号 19910

(3)「年」(数字)

『切抜集』表紙に表示されている新聞発行年（西暦4桁)。

(4)「月日」(数字)

台紙に表示されている新聞発行日（月2桁，日2桁)。

例：1月1日→0101，12月31日→1231

(5)「新聞名」

台紙に表示してある新聞名(「夕刊」「大阪版」「名古屋版」などの表示は除く)

(6)「朝夕」

台紙に表示してある新聞名の前に「夕刊」とあるものは「夕」，それ以外は（日刊紙・週刊紙・季刊紙を含め)「朝」と記入。

(7)「地方版」

台紙に表示してある新聞名の後に「(大阪)」「(名古屋)」と表示してあるものについて「大阪」「名古屋」と記入。

(8)「ページ」(数字)

記事にページが記入してある場合に記入。複数のページにわたる場合は最初のページのみ記入。

(9)「掲載面」

記事に“〈p.10 投書〉”のように記入してある場合にその掲載面を記入。(「欄名」との区別に注意)

(10)「執筆者属性」

次の三つから必ずどれか一つを選択，記入する。

「内部」：新聞記者など，新聞社内部の人が執筆した記事。

「投書」：投書欄の記事，また投書欄でなくても投稿者の名前・住所・年

齢などが明記してある記事。

「依 頼」：随筆・小論文・レポートなど，（新聞記者以外の）専門家が書いた記事。また，読者の質問に（新聞記者以外の）専門家が答えた記事や専門家が集まった座談会もここに含める。通常，執筆者や参加者の名前が大きく明記されている。

(11)「氏名」

次の条件に該当する人の氏名を記入（肩書，住所，年齢などは不要。姓と名の間にはスペースを入れる。）

①(10)で「投書」「依頼」とした記事の投稿者・執筆者

②インタビュー記事においてインタビューを受けた人

③座談会などの参加者

(12)「欄名・見出し」

記事の「欄名」（例えば「天声人語」「この人に聞く」）と「見出し」を記入する。個々の欄名や見出しの間はスペースをあける。

「欄名」は，記事中に記載してある場合（「天声人語」など）と記事に鉛筆で“p.1〈天声人語〉”のように記入してある場合がある。（「掲載面」との区別に注意）欄名の記載がない場合は見出しのみ記入。→1.2.2.参照

(13)「備考」

見出しだけからは記事の内容が把握できない場合に，記事の内容に関する簡潔な説明を記入。

例：〈欄名・見出し〉声　手紙　ことば　行動もおおらかに

〈備考〉きれいな日本語は行動もおおらかにさせる

(14)「分類」

記事の内容の大まかな分類。「現代日本語事情」「一般」「海外」から選択→1.2.3.参照

(15)「キー」

記事の内容の細分類（14の下位項目からなる）→1.2.3.参照

(16)「新キー」

検索のためのキーワードとなりそうな語句を記入。(後で整理しキーワードとしてまとめる。) 例：敬語，日本語教育，人名漢字→ 1.2.3.参照

⑰「採用」

「ことば」と直接の関係にある記事には○，そうでないと思われる記事には×を記入。(データベース化を優先させる記事の選択)

⑱「入力日」

入力日を記入。例：1991 年 10 月 1 日→ 19911001

⑲「入力者」

入力者の名前を記入。

⑳「作業情報」

何らかの理由で判読や記入ができない項目の項目番号と疑問点を簡潔に記入する。例：12 (見出し選択不可)

以下では，いくつかの項目について少しくわしく述べる。

1.2. 項目の内容の詳細及び注意

1.2.1. 記事の単位及び「記事番号」

『台帳』では一つの記事に一つの記事番号を対応させて 1 レコードとする。

しかし，『切抜集』では 1 枚の台紙に複数の記事がはってあると判断される場合がしばしばある。次のような場合は同一の台紙にはってあっても別の記事として扱う。

①1 枚の台紙に複数の新聞社の記事がはってある場合

②執筆者が異なる記事 (特に投書記事)

③内容的に関連がうすい (共通のテーマ・見出しがない) 複数の記事がはってある場合

この場合，同一の記事番号のレコードを複数つくることになる。

なお，枝番は通し番号をうち忘れた台紙があった場合に限り 0 以外の数字を記入する。

例：通し番号 1990 (記事番号 19900) と通し番号 1991 (記事番号 19910)

の間に通し番号をうち忘れた台紙が2枚あった場合，それぞれ記事番号を19901，19902とする。

1.2.2.　「欄名・見出し」

「欄名・見出し」は原則として新聞に書いてある「欄名」「見出し」をすべて入力する。

記事そのものに見出しがない場合（天声人語など）は，台紙に記事の内容が簡単に記入してあるので，それを記入する。

見出しの数が極端に多い場合(例えば記事のサイズがきわめて大きい場合)は，上位の見出しと記事の内容を端的に示していると思われる下位の見出しを適宜選択して記入する。

また，1枚の台紙に共通の見出し(テーマ)を持つ複数の記事がはってある場合（特集記事，投書など）は，共通の見出し（テーマ）をすべてのレコードについて記入する。

例：「声」(投書欄）という欄に「手紙　ことば」というテーマで三つの投書（「行動もおおらかに」「時代に合わせ柔軟に」「『あげる』に敬意感じぬ」）があり，それらが通し番号2958の台紙にまとめてはってある場合。

〈記事番号〉29580〈欄名・見出し〉声 手紙 ことば 行動もおおらかに

〈記事番号〉29580〈欄名・見出し〉声 手紙 ことば 時代に合わせ柔軟に

〈記事番号〉29580〈欄名・見出し〉声 手紙 ことば 「あげる」に敬意感じぬ

1.2.3.　内容分類に関する情報：「分類」「キー」「新キー」

「分類」は，「採用」欄で「○」を付加した（すなわち「ことば」と直接に関係する内容の）記事の内容を大まかに分類するための情報であり，次の三つから選択する。(採用欄を「×」とした記事は記入不要。)

〈現代日本語事情〉

現代の日本人の言語・言語行動・言語生活に関する記事。

〈一般〉

昭和以前の日本語に関する記事・レポート。

日本語の基本的性質についての学術的色彩の強い記事・レポート。

〈海外〉

海外の（日本語及び日本人とは直接関係のない）言語事情に関する記事。

（海外における日本語教育，海外における日本人子女の教育などに関する記事はここには含まれない）

「キー」は記事の一段階細かい内容に関する情報であり，次の 14 の下位項目からなる。

〈最近の日本語〉

最近の日本語の傾向に関する記事

〈用語〉

「官庁用語」「皇室用語」など「～用語」に関する記事

〈命名〉

固有名（人名，地名，ネーミング，夫婦別姓 etc.）に関する記事

〈外来語〉

外来語に関する記事

〈文字・表記〉

文字・表記に関する記事。（漢字問題，送りがな問題，外来語表記，人名漢字など）

〈言語活動〉

読書，放送，手紙，図書館，ニューメディアなど，日常の言語生活に関連する内容の記事

〈出版・創作〉

ことばに関連する出版物，テレビ（ラジオ）番組，演劇など，「作品」

的なものに関する記事

〈学習・教育〉

ことばの教育・学習に関する記事（言語教育，ことばのしつけなど）

〈日本と外国〉

日本人と外国（人）との関係に関する記事

〈政策〉

文部省，自治体などの政策に関連する記事（国語審議会関係など）

〈言語障害〉

言語障害に関する記事

〈方言〉

方言に関する記事

〈技術〉

コンピューターなど技術的なことに関する記事

〈国語研〉

国立国語研究所の研究・業務に関する記事

これらは『台帳』上では独立の項目となっており，該当するものすべてに○をつける。

例１：内容「常用漢字が改訂された」

→〈文字・表記〉〈政策〉に○

例２：内容「外来語の表記に関する本が出版された」

→〈外来語〉〈文字・表記〉〈出版・創作〉に○

しかし，「キー」は本来の意味でのキーワードではない。そこで，具体的なキーワード候補になるような語句を「新キー」に記入しておく。

例：「常用漢字が改訂された」という内容の記事

→常用漢字，国語審議会

「新キー」に記入された語句は後でキーワードとして整理する。

以上，『台帳』に含まれる情報の概略を述べた。

1.3. 表記

『台帳』の表記に関しては「原則として新聞に書いてある表記と同じ表記とする」という原則を定めた。ただし，次の点に注意すること。

① JIS コード（拡張文字を含む）にない漢字（旧漢字，中国の簡体字，異体字）及び記号については，JIS コードにある新漢字（正字）及び（誤解のない程度に）類似の記号を用いる。

例：㉑は「21」，⇄は「→←」（または「←→」）

② JIS コードにそもそも新旧漢字・類似の記号がない場合は「〓」（222 E）を記入する。

例：你（中国の簡体字）は「〓」

③文字データの項目については，数字・アルファベット・記号・スペースはすべて全角文字とする。

④読みがながある場合は語のすぐ後ろに括弧でくくって記入する。

例：春遍　雀來（はるぺん　じゃっく）

1.4. 凡例

次ページの記事には次のような情報が付与されている。

〈台帳番号〉645〈記事番号〉1180〈年〉1988〈月日〉0116
〈新聞名〉サンケイ　〈朝夕〉夕　〈地方版〉（記入不要）
〈ページ〉6〈掲載面〉（記入不要）
〈執筆者属性〉内部　〈氏名〉春遍　雀來（はるぺん　じゃっく）
〈欄名・見出し〉土曜・いんたびゅー　春遍　雀來（はるぺん　じゃっく）
（辞書編さん者）　神秘的な日本語をこよなく愛して
〈備考〉春遍　雀來の「漢英大字典」出版
〈分類〉現代日本語事情　〈キー〉（「出版・創作」「日本と外国」に○）
〈新キー〉春遍　雀來　漢英大字典　〈採用〉○
〈入力日〉19911001　〈入力者〉辻野都喜江　〈作業情報〉（記入せず）

夕刊サンケイ
昭和63年1月16日

神秘的な日本語をこよなく愛して

春遍雀來

（辞典編さん者）

63-1.16 サタ P.6
〈土曜いんたびゅ〉

外国人に最大の福音

外国人日本語弁論大会で感動し、一輪車を日本に広めたイスラエル人、と言えば・・あぁ、あの人・と思い出される人も多かろう。

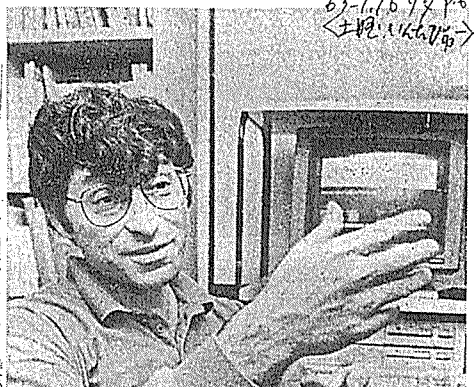
いまこの人はめっぽう忙しい。十四年の歳月をかけ、心血を注いだ『漢英大辞典』が研究社から今夏、出版されそうとあってようやくこぎつけ、最後の仕上げにかかっているからだ。大判で三千六百の大部。つづいてポケット判も刊行される。

――なぜ漢字辞典に。

「自分が日本語を勉強した時、漢字にとても苦しんだ。日本語を本当に使いこなせる外国人が極めて少ないのは、日本の漢字を合理的に学ぶ効果的な学習法がないからだ、と思いあたったからです」

こうして漢字を論理的かつ体系的に学ぶ方法を考案し、独自の検索法を採用、類義漢字の分析、正確な問題使い分けを編集し、これまだれも成し得なかった字義の整理とその解明を導入した。

ゲラを見せてもらったが、確かに素晴らしい。英語を通じての漢字学習辞典なので細かい絵がでてきたいのは機密だが、日本語を学びたい外国人にとっては最大の福音。



八カ国語がペラペラ

――日本語との出合いは。

「イスラエルの半ばで働いていた二十二、三歳ころ、周りに日本人がいて宣伝したんです。なんと不思議で、神秘的な言葉だろう、と思いました。エキゾチックな東洋そのものを感じたんです。今で日本語のイントネーションや言葉の流れ好きですがね」

日本語の独学がうらやましい。昭和四十八年夏、四十歳の今日まで日本に居ついている。日本名は・春遍雀來・。夫人のミハルさんは美晴、長男のバラキ君には雷鼓、次男、長女のケレンさんには花蓮という凝りよう。西独ミュンヘンの生まれだが、親に連れられてイスラエル、フランス、ブラジル、アメリカ、イスラエルと渡り住み、八カ国語を話す。アメリカの大学での専攻は物理と天文。

――どの国の言葉がいちばん？

「どりゃ英語ですね。ついでポルトガル語の再勉強を始めます。ブラジル語が、日本語。暇ができたらアマゾンで冒険しようと、ボルボ乗ろうなら日本語、日本語・漢字の知識にかけては一般日本人でかなう人はまずいないだろう。

――子供は何カ国の言葉を？

「日本で育ったので日本語だけ。自分の子供には十分な努力をしない駄目な親です。長男はただ、ぶらぶらしているだけです」

自宅は埼玉県新座市野火止だが事務所は新宿区地内の3DK。辞典編さん用のコンピューターが並び、何人もの女性アシスタントが働いている。本人は手芸技術者の和装翻訳、『ユダヤ人の知』『日本人の知』のベストセラーなど十二冊の本の出版や講演などで稼いでいるが、収入は辞典編は二千冊。さぞや大変に違いない。

「あちこち頭を下げて会費、大学、財団、研究所などから寄付や助成金を仰いで金集しました。プロのつじきになった感じで、半分の時間は資金集めでした。いまは耳、六人に振ってもらってますが、一時は十二、三人。しんから金が欲しい」

これだけの大辞典をやってのけて辞典二冊だけではシャクだとも・もったいないから・と『類義漢語』『同訓漢字』『実用文化編』など、膨大な資料から三千冊近い辞書を次々に完成させるそうだ。

「でもねえ、日本に住んで暮らしいのは、いくら言葉ができても外人扱い。仕事の表現はいいが、言葉がかわいそうで・・」

（大賀 鳥編集委員）

（撮影 伊藤 隆二）

1.5. 『台帳』の活用法

『台帳』は，基本的には国語研究所に蓄積された新聞記事の目録であるが，それ自体を一種の研究資料として活用することも考えられる。

例えば，『台帳』を見ることによって，「ことばに関連する出来事の時代的な流れ」や「日本人のことばに対する意識の変化」の概略を見ることができる。例えば，次のような特定のテーマについて一種の「年表」を作成することも可能であろう。

(i) 新聞社が投書欄のテーマにどのような内容をたて，読者がどのような意見を述べているか（見出しだけでもある程度はわかる）

(ii) 「方言」や「日本語の乱れ」などに関してどのような記事があるか

また，『台帳』は「どのような記事がどの時期にどれくらいあるか」ということを統計的に調査するためにも（ある程度）用いることができるだろう。（2．で述べることはそのような試みの一つである。）

『台帳』は，現在ごく一部が作成されたにすぎないが，今後入力を外注化するなどの方法をとり，できるだけ早く完成させたい。

2．『国語年鑑所収新聞記事データベース』について

本節では，辻野が『国語年鑑』（国立国語研究所編）所収の「新聞記事一覧（国語関係）」をもとに作成した『国語年鑑所収新聞記事データベース』の内容，及び，それを用いておこなった調査について述べる。

2.1. 資料について

2.1.1. 基礎資料

『国語年鑑所収新聞記事データベース』（以下『データベース』）の基礎資料としたのは，『国語年鑑』所収の「新聞記事一覧（国語関係）」（以下「一覧」）である。

これは1.で述べた『切抜集』に採録された記事のうち，その年の動向が見られる主な記事をピックアップして，見出し（「一覧」では「題名」）を日付

順に記載したものである。(連載記事の項目は各年の終わりに別立てで付されている。)「天声人語」のようなコラム欄などで見出しのない記事には編集者が仮の「題名」をつけている。

今回は，昭和55年（1980年）から平成元年（1989年）までの「一覧」（ただし，掲載記事の内容は，国語年鑑出版年の前年の記事なので，昭和54年（1979年）～昭和63年（1988年）の10年間の新聞記事が対象である）についてデータベース化をおこなった。

各年の『切抜集』と「一覧」それぞれの記事数は表1のようになる。

表1　データーの集録数

新聞記事の採集年	A新聞所載国語関係記事切抜集	B国語年鑑所収新聞記事データベース	Aに対するBの比率
1979年	2,966件(注)	583件	19.7%
1980	3,445	445	13.0
1981	4,078	533	13.1
1982	3,786	427	11.3
1983	4,235	494	11.7
1984	4,250	521	12.3
1985	3,872	482	12.4
1986	3,853	459	11.9
1987	4,236	473	11.2
1988	3,292	330	10.0
合　計	38,013	4,747	12.5

(注)：『新聞所載国語関係記事切抜集』の件数は各年の『年報』によっている。

年によって多少の動きはあるが，『切抜集』のうち平均して，約12.5%の記事が「一覧」にピックアップされている。

2.1.2. データベース化にあたっての基礎資料の処理

「一覧」の掲載方法は年によって多少異なる。データベース化にあたっては，次のような統一をおこなった。

① 『国語年鑑』で「題名」のない記事として扱っているものには［ ］を付加する。

② 『国語年鑑』の 1980 年版から 1985 年版までは通し番号がついてないので，通し番号を与える。

③ 『国語年鑑』では，同類のテーマの記事が仮の題名つきで一か所にまとめて掲載されている場合がある。(新聞名と日付はそれぞれの記事について明示されている。) この場合，1 紙の記事ごとに 1 件として扱う。

④ 連載記事については，記事の性格が違うため今回はデータベース化の対象外とする。

2.2. 『データベース』に含まれる情報

『データベース』は，第 1 章で述べた『台帳』と同様「桐 Ver. 3」を用い，『台帳』と同じ書式で作成した。ただし，1．で述べた『台帳』の書式は，1991 年 7 月に (主として外注化した場合に入力を容易にするという目的で) 変更が加えられており，『データベース』が採用している書式はその変更前の書式である。

(1)「記事番号」

(2)「掲載年」

(3)「月日」

(4)「新聞名」

(5)「朝夕」

(6)「地方版」

(7)「執筆者属性」

(8)「執筆者氏名」(依頼記事のみ)

(9)「欄名」

(10)「見出し」(新聞記事一覧では「題名」とあるもの)

(11)「備考」

(12)「分類」

(13)「キー1」「キー2」「キー3」

「現代日本語事情」とした記事の細分類。19 項目から選択。一つの記事につき三つまで付加可能。

(14)「新キー」

(15)「国研」　国語研究所の研究に関する記事には○をつける。

(16)「入力日」

(17)「作業情報」

変更前と変更後とで特に異なるのは,「キー」に関する情報である。

現在の『台帳』では 14 の下位項目を「キー」の下位項目としてたてて,該当するものをすべて選ぶようになっているが,『データベース』では 19 の下位項目のうち最大三つまでを選ぶようになっている。

「キー」の内容についていえば,例えば『データベース』では「最近の日本語」「ことばづかい」「流行語」をそれぞれ 1 項目としているが,現在の『台帳』では「最近の日本語」にまとめている。また,『データベース』では別項目とした「日本人と外国語」「外国人と日本語」「海外における日本人」「日本語と外国語」も現在の『台帳』では「日本と外国」にまとめている。また,『データベース』では「国語教育」となっているものは,『台帳』では「学習と教育」に名称を変更したというケースもある。(くわしくは 2.3.2. で述べる。)

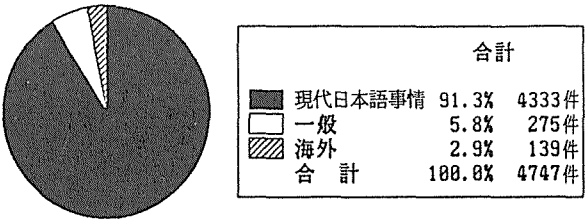
2.3.　『データベース』にみる記事の採録動向

2.3.1.　『見出し』の分類

『データベース』には採録した記事は合計 4,747 件である。これらを「分類」をもとに分類すると図 1 のようになる。

「現代日本語事情」と分類した記事(現代の日本語,日本人の言語活動に

図1　記事の内訳



関連する記事）が4,333件（91.3%）と最も多く，『データベース』の中心をなす。「一般」（昭和以前の日本語に関する記事・レポート，日本語の基本的性質についての学術的色彩が濃厚な記事・レポート）は，275件（5.8%），「海外」（海外の言語事情に関する記事）は139件（2.9%）である。

以下では，最も採録記事が多い「現代日本語事情」についてくわしく見ることにする。

2.3.2.　「現代日本語事情」の分類

2.3.2.1.　「キー（1，2，3）」

『データベース』では，「現代日本語事情」とした記事について，「キー（1，2，3）」に次の19項目のうち該当するものを三つまで付加した。

情報の付加は「題名」をもとにおこなった。「題名」だけでは記事の内容が把握できない場合は，『切抜集』にもどって内容を確認した上で情報を付加した。

A「最近の日本語」

日本語の発音や語形のゆれなど，日本語の使い方やあり方に関する記事（発言や意見も含む）。

B「ことばづかい」

敬語，あいさつ，呼称など「人を相手にした言語行動」に重点がおかれている記事。

C「用語」

「マスコミ用語」「官庁用語」「学術用語」「皇室用語」など，「～用語」に関する記事。

D「命名」

人名，地名，会社名など，固有名に関する記事。

E「外来語」

外来語の使用に関する記事。

F「文字・表記」

漢字問題，仮名遣い，送り仮名，外来語の表記など，文字・表記に関する記事。(「国語審議会」関係で表記の問題が扱われている場合は，「文字・表記」と「政策」の二つを付加する。)

G「出版・創作」

ことばをテーマにした出版物，テレビ（ラジオ）番組，演劇など，「作品」的なものに関する記事。

H「国語教育」

「学校教育制度」「学校教育における授業」などに関する記事。

I 「流行語」

流行語，新語，コマーシャル，世相語などに関する記事。

J「ことばの学習」

日本人の言語能力，ことばのしつけなどに関する記事。

K「海外における日本人」

海外における日本人の言語事情，海外子女教育・帰国子女教育に関する記事。

L「日本人と外国語」

日本人と外国人・外国文化とのかかわりに関する記事。

M「外国人と日本語」

日本語教育関係に関する記事。外国人（厳密には日本語を母語としない人）と日本語・日本文化とのかかわりに関する記事。海外にお

ける日本語事情・日本語教育事情などに関する記事。

N「日本語と外国語」

翻訳，対照言語学，文化の違いなどに関する記事。

O「言語活動」

読書，新聞，放送，広告，手紙，電話，ニューメディアなど，人がメディア等を利用しておこなう言語活動についての記事。

P「政策」

国語審議会，教育課程審議会など，文部省に関する記事。また，国語政策に対する意見など。

Q「言語障害」

言語障害に関する記事。(点字，手話など)

R「方言」

方言に関する記事。

S「技術」

コンピューターなど，言語に関係する新しい技術の開発に関する記事。

一つの記事に対しては最大三つまで分類を付加することができるが，付加された分類は延べ5,885個である。なお，「キー2」「キー3」に付加する分類名については特に優先順位は決めなかった。

一つの分類のみ付加された記事は2,785件(64.3%)，二つの分類が付加された記事は1,344件(31.0%)，三つの分類が付加された記事は204件(4.7%)である。一つの分類のみが付加された記事が多いのは，原則として見出しだけから分類を付加したために，記事の細かい内容まで把握できなかったからである。

2.3.2.2.　内訳

次に，各分類項目ごとの内訳を表2に示す。

表２　「現代日本語事情」 分類別記事件数（キ-1）

	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	合計	キ-1～3 計
A	19	20	20	15	23	27	23	14	15	20	196	216
B	13	17	3	12	22	19	19	17	17	19	158	159
C	8	35	30	34	40	28	34	30	25	16	280	333
D	36	5	11	12	22	70	23	10	48	26	263	396
E	8	4	0	3	6	15	1	2	14	9	62	75
F	156	49	170	38	24	35	65	67	43	54	701	772
G	40	55	39	54	55	40	38	41	43	23	428	578
H	9	34	26	16	9	18	15	15	13	0	155	246
I	11	17	19	30	29	28	24	24	22	11	215	224
J	8	5	0	0	1	0	4	1	0	3	22	32
K	15	16	28	15	19	4	13	12	6	0	128	129
L	28	23	27	14	11	7	13	20	12	5	160	174
M	39	22	14	46	36	34	39	33	32	64	359	364
N	7	12	7	13	10	21	4	6	16	5	101	122
O	76	50	63	52	82	73	96	101	101	45	739	891
P	2	4	0	4	0	0	0	0	0	0	10	628
Q	15	6	6	14	11	12	7	4	15	8	98	104
R	10	11	13	8	17	16	5	9	15	5	109	122
S	17	17	13	13	28	19	11	13	10	8	149	320
合計	517	402	489	393	445	466	434	419	447	321	4333	5885

A:最近の日本語　B:ことばづかい　C:用語　D:命名　E:外来語
F:文字・表記　G:出版・創作　H:国語教育　I:流行語
J:ことばの学習　K:海外における日本人　L:日本人と外国語
M:外国人と日本語　N:日本語と外国語　O:言語活動　P:政策
Q:言語障害　R:方言　S:技術

二つ以上の分類を付加した記事と一つだけ付加した記事を比べた場合，P「政策」にきわだった特徴が見られる。「政策」だけが単独で付加された記事は10件で19項目の中では最も少ないが，「政策」と別の分類が付加された記事になると628件と突出して数が多くなり，19項目中で3位になる。これは，常用漢字や仮名遣い，外来語の表記などに関する国語審議会関係の記事が多かったためである。

各項目の採録数を見ると，10年間の総計ではO「言語活動」の採録件数が上位を占め，また毎年平均して「言語活動」の件数の多いことが明瞭に読みとれる。

年による変動の一番大きいのはF「文字・表記」であり，1979年（156件），1981年（170件）と突出している。1979年は国語審議会から「常用漢字表案」が発表された年，1981年は「常用漢字表」が答申され内閣から告示された年であることと関係している。（この点については2.3.4.でくわしく述べる。）

次に，最も件数の多い「言語活動」についてその内容を示す。

2.3.3. 「言語活動」の分類について

「言語活動」に分類した記事は，「読書」「新聞」「放送」「広告」「手紙」「電話」「ニューメディア」など，広く言語生活，言語活動にかかわる内容の記事であり，その範囲の広さゆえに記事の件数も多い。

上記の「読書」から「ニューメディア」までの7語に「その他」を加えて8項目に分類した場合，その内訳は表3のようになる。

「読書」「放送」の順で件数が多い。「読書」については各新聞社がおこなう世論調査などにみられる読書率や読書傾向を紹介した記事が多く採録されている。「放送」についても，各種の調査報告を通じてテレビや放送とのかかわり方を紹介した記事や，NHKの視聴率調査に関する記事などが採録されている。「テレビと子供」に関する調査記事も目につく。

3位は「ニューメディア」だが，これは今回のデータベース化の対象となった1979年頃から見られるようになった新しい分野である。1979年の

表3　「言語活動」の内容

内　容	件数	比率
読書	169	22.9
放送	135	18.3
ニューメディア	81	11.0
広告	74	10.0
新聞	46	6.2
電話	46	6.2
手紙	41	5.5
その他	147	19.9
合　計	739	100.0

「キャプテンシステムの実験開始」という記事をはじめとして，「ファクシミリ，光ファイバーによる通信の実用化，光ディスクに情報を蓄積，INSの実験，パソコン通信」などの，この分野にかかわることが年を追ってみられる。

また，「メディア」という語を見出しに使用した記事の件数を表4として示す。

1979年は「新メディア」のみだが，1981年になると「新メディア」「ニューメディア」の両方が使用され，1982年以降は「ニューメディア」にほぼ定着している。ことに 1985年，1986年は使用頻度が高い。1987年には新しく「マルチ・メディア」が出現している。また，1982年以降には「ニューメディア時代」「ニューメディア政策」「ニューメディア初体験」「ニューメディア調査」のような複合語も使用されている。

ちなみに，『現代用語の基礎知識』(自由国民社)の 1979年の前後5年間を見たが「新メディア」という語は採録されていない。「ニューメディア」については 1982年から採録されている。

表4　見出し語にメディアを使用した記事件数

語	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	合計
新メディア	1		1		2		1				5
ニューメディア			2	1	5	2	11	7		2	30
メディア					1			1			2
マスメディア							1		1		2
パーソナルメディア								2			2
マルチ・メディア									5		5
合　計	1		3	1	8	2	13	10	6	2	46

次に，各年度による変動の一番大きいF「文字・表記」についてその内容を示す。

2.3.4.　「文字・表記」の採録記事

2.3.4.1.　国語審議会関係

「文字・表記」に分類されている記事の中心をなすものは，「漢字問題，仮名遣い，外来語の表記」などに関する記事である。表2に示したように，F「文字・表記」として分類された記事は701件であるが，このうち，「政策」も付加されている記事が481件で68.6%を占める。すなわち，「文字・表記」と分類された記事の三分の二が国語政策，具体的には国語審議会関係の記事なのである。

これらの記事をもとに国語審議会の審議事項について略年表をつくると表5のようになる。

この10年間では「常用漢字表」「改定現代仮名遣い」について答申がなされ告示されている。これらの審議経過は，各紙に報道されると同時に，社説や論説欄，コラム欄には各紙の見解が掲載され，文化欄や学芸欄には識者の

表5　国語審議会審議事項略年表(1979年～1988年)

年.月.日	審議事項	備考	掲載紙名、(月、日)
'79. 3.30	「常用漢字表」(第13期*、中間答申)	・人名漢字見直し、法務省が民事行政審議会へ諮問(1.25) ・第14期委員発令、常用漢字確定版作りへ (6.1)	毎日・読売・日経(1.25) 各紙朝刊(3.31) 各紙朝刊(6.1)
'80.		・民事行政審議会委員発令、人名漢字追加の字種審議(4.22)	毎日朝刊(4.23) サンケイ朝刊(4.27)
'81. 3.23 10. 1	「常用漢字表」(第14期、答申) 「常用漢字表」(内閣、告示)	・民事行政審議会答申、人名漢字54字追加(4.27) ・新人名漢字10月1日に告示	各紙朝刊(3.24) 各紙朝刊(4.28) 朝日朝刊(8.10)東京・日経・北海道朝刊(8.31) 各紙夕刊(9.22)
'82.		・第15期委員発令、「現代かなづかい」を見直しへ(3.5)	各紙朝刊(3.5)
'84. 2.28	「現代かなづかい」(第15期、中間報告)	・第16期委員発令、「現代かなづかい」を見直し(4.16)	読売・東京朝刊(2.29) 各紙朝刊(4.16)
'85. 2.20	「改定現代仮名遣い(案)」(第16期、公表)		各紙朝刊(2.21)
'86. 3. 6 7. 1	「現代仮名遣い」(第16期、答申) 「現代仮名遣い」(内閣、告示)	・第17期委員発令「外来語・外国地名表記の見直し(12.10)	各紙朝刊(3.7) 各紙朝刊(6.23) 各紙朝刊(12.10)
'88. '88.12. 8	「外来語表記」(第17期、中間報告)	・人名漢字字種追加へ、法務大臣が諮問表明(12.2)	各紙夕刊(12.2) 各紙朝刊(12.8)

＊：「第13期」は第13期国語審議会の略(以下同)

意見や解説などが掲載される。それだけ関心の高いことがらだということである。

国語審議会の審議対象になった「常用漢字」「現代かなづかい」「外来語表記」に「人名漢字」を合わせてその採録件数の状況を示すと表6のようになる。

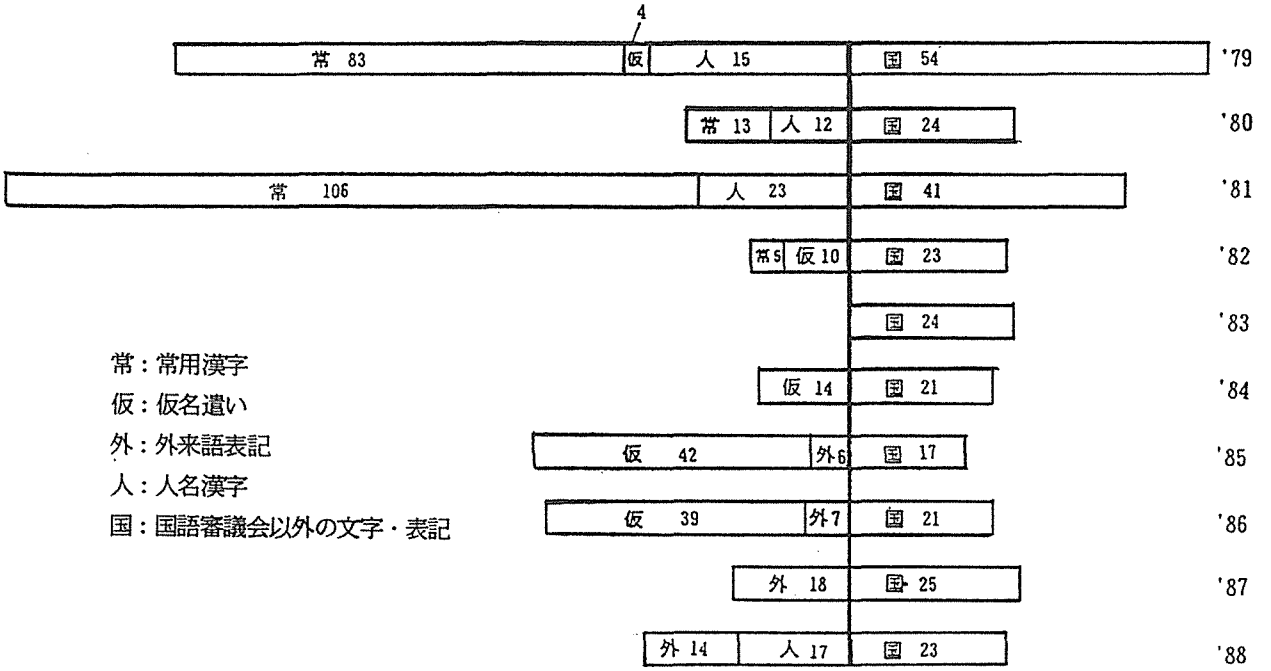
表6　国語審議会関係記事の集録件数

キーワード	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	合計
常用漢字	83	13	106	5	0	0	0	0	0	0	207
仮名遣い	4	0	0	10	0	14	42	39	0	0	109
外来語表記	0	0	0	0	0	0	6	7	18	14	45
人名漢字	15	12	23	0	0	0	0	0	0	17	67
合　計	102	25	129	15	0	14	48	46	18	31	428
文字・表記	156	49	170	8	24	35	65	67	43	54	701
国語審議会以外の文字・表記	54	24	41	23	24	21	17	21	25	23	273

また，「文字・表記」の中の「国語政策」の割合を示したのが図2である。(表6の各項目の件数をもとに作図したものである。)

表6，図2を見ると，審議経過にそってそれぞれの項目の採録件数が変化していることがわかる。(略年表とあわせて見ていただきたい。)これは，1979年3月30日には国語審議会から「常用漢字表」(中間答申)が発表され，1981年3月23日に「常用漢字表」が答申され，10月1日に告示されたこと，及び「人名漢字」についても答申と告示があったことの反映である。

図2　「文字・表記」に占める国語政策の件数



次にこれらのことがらについて一般読者（「投書」）の関心はどうであったかを述べる。

2.3.4.2.　「投書」から見た国語政策に関する関心度

一般読者の意見がのせられている投書欄，（朝日新聞「声」，毎日新聞「みんなの広場」など）に掲載された記事が，『国語年鑑』の「今年の動向が見ら

表7　投書の内容

（単位：件数）

分類	内容	政策 有	政策 無	計	比率
文字・表記	常用漢字	65		65	22.6
	仮名遣い	31		31	10.8
	外来語表記	13	5	18	6.3
	人名漢字	17		17	5.9
	ルビ		10	10	3.5
	漢字簡略化	1	6	7	2.4
	教育漢字	5		5	1.7
	その他	1	3	4	1.4
その他	日本語の乱れ		22	22	7.6
	英語教育	1	10	11	3.8
	現地音表記		10	10	3.5
	呼称		7	7	2.4
	(～)日本語(～)		7	7	2.4
	日本語教育		6	6	2.1
	倒置読み		6	6	2.1
	敬語		5	5	1.7
	その他	1	56	57	19.8
	合計	135	153	288	100.0

れる主な記事」として採録されることはそれほど多くはないが，例外的に国語政策に関する記事は採録されている。

「現代日本語事情」4,333件のうちの「投書」は288件であり，延べ執筆者数4,333人のうち6.6%（288人）を占める。「投書」の記事の内容を分類したものが表7である。

288件のうち，「文字・表記」に関する記事は157件である。さらにこの中で「国語政策」に関する記事は133件である。その内訳は，「常用漢字」65件，「仮名遣い」31件，「人名漢字」17件，「外来語表記」13件，その他7件である。「常用漢字」と「人名漢字」を合わせると82件になり，漢字に関する記事の多いことがわかる。一般に，国語といえば漢字，国語ができるということは漢字が読めたり書けたりできることであるという風潮があるが，上記のこともその反映であろう。

以上の内容を見てもわかるように「文字・表記」は他の分類項目と比べ「投書」の採録件数が多い。これは『国語年鑑』の編集方針として，「常用漢字表」などの発表されたあとの投書記事で，それに対する意見や主張の論旨が明快で，資料として記録しておく必要があると考えられるものは掲載したということである。

次に，「漢字」「仮名」に関する執筆者の属性について話題別に述べることにする。

2.3.4.3.　話題別執筆者属性

「常用漢字表」と「改定現代仮名遣い」に関する記事が誰によって書かれたものかを，(i)それぞれの話題が出現した日から審議事項が発表される前日まで，(ii)発表された日からその後の2週間，(iii) 2週間後からその年における話題の最終日まで，という三つの期間に分けて見てみる。(表8)

案，答申，告示をあわせると「常用漢字表」に関しては189件であり「改定現代仮名遣い」81件の約2.3倍と件数が多くなっている。期間別にみると「案」，「答申」では(ii)の期間に集中しているが，「告示」では，(i)(iii)の期

表8　話題別執筆者属性件数

事　　柄	話題の期間 上段 (i) 中段 (ii) 下段 (iii)	執筆者の属性 内部	依頼	投書	合計
常用漢字表案('79.3.30)	'79.3.3～3.29	5	0	3	8
	'79.3.30～4.12	18	10	17	45
	'79.4.13～11.1	18	1	11	30
常用漢字表答申('81.3.23)	'81.1.12～3.22	1	0	1	2
	'81.3.23～4.5	24	2	13	39
	'81.4.6～5.18	7	5	8	20
常用漢字表告示('81.10.1)	'81.9.1～9.30	23	0	3	26
	'81.10.1～10.14	5	1	5	11
	'81.10.15～12.20	8	0	0	8
小　　計		109	19	61	189
改定現代仮名遣い(案)('85.2.20)	～2.19	0	0	0	0
	'85.2.20～3.5	18	0	8	26
	'85.3.6～6.27	8	5	3	16
改定現代仮名遣い答申('86.3.6)	～3.5	0	0	0	0
	'86.3.6～3.19	20	1	6	27
	'86.3.20～4.9	2	1	0	3
現代仮名遣い告示('86.7.1)	'86.6.23～6.30	3	0	0	3
	'86.7.1～7.14	0	0	0	0
	'86.7.15～12.2	2	4	0	6
小　　計		53	11	17	81

間に記事が多くみられる。

「執筆者属性」とのかかわりでは，「依頼」が「常用漢字表」では19件で「改定仮名遣い」11件の約1.7倍となっており，特に「常用漢字表案」の(ii)の期間に10件も集中している。新聞社が依頼した内容(あるいは依頼を受けた識者の関心）は「改定仮名遣い」より「常用漢字表」の方が高かったということである。(「外来語表記」については，この調査期間は審議中だったので上記のような分析は行わなかった。)

以上，この章では国語政策に中心をおいて記したが，これは「文字・表記」701件のうちの61.0%，428件を対象としてのことである。これ以外に「文字・表記」には273件，39.0%分があるが，このなかには，主なものとして，学

して，学校教育における漢字の問題や，1984 年から 1986 年にかけて話題になった丸文字(マンガ文字)，ルビについての賛否両論の記事などが採録されていることを付しておく。しかし，これらの問題については今回は時間の制約があり，別の機会に調査をおこないたい。

2.4. おわりに

以上，『データベース』をもとにした調査について述べたが，今後は『データベース』の情報を『切抜集』の情報とあわせて，より詳しい調査をおこなう予定である。

また，新聞記事に見られる以外の動向，例えば，ことばに関する書籍や雑誌論文などの動向もあわせて，日本の「ことば」に関する一般的な動向について調査をすることも考えている。